

パキスタンの魅力とJICAの活用方法

1. パキスタンの魅力
2. JICAの活用方法

パキスタンの魅力とJICAの活用方法

- 1. パキスタンの魅力**
2. JICAの活用方法

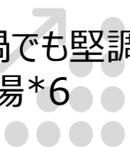
- ✓ パキスタンの投資先としての魅力は大きく分けて①若く、多い労働人口を擁する国②コロナ禍でも堅調に伸びる市場③整備されつつあるビジネス環境が挙げられる。

若く、多い人口を擁する国



- ✓ 人口約2.1億人で世界第5位の巨大市場* 1
- ✓ 30歳未満の国民が人口の約6割*2
- ✓ 消費者層として、中所得者層が約3割超を占め、今後も増加傾向*3・4（一日あたりの支出が約2米ドル～20米ドル）
- ✓ 労働力として、大学や専門学校卒のパキスタン人のほとんどは英語を話すことが可能*5
- ✓ また、労働力として、賃金については上昇率が懸念されるものの他国と比較し依然低い水準である。

コロナ禍でも堅調に伸びる市場*6



- ✓ 2020年12月時点においても過半数以上の進出済み日系企業が事業拡大意欲を示している国(アジア20か国で過半数を超えているのはインドとパキスタンのみ)
- ✓ 2020年においても30%超の企業が営業利益を改善
- ✓ 約70%の企業が2021年前半までにはビジネスが正常化すると回答

整備されつつあるビジネス環境



- ✓ 世界銀行のEase of Doing Business においても大幅にランキング・スコアを改善（2018年：138位→2019年：108位） *7
 - ✓ ビジネス開始のための手続きや小規模投資家の保護の観点が評価されている。一方で、税金の支払いプロセス等が煩雑である等の課題の残っている。
- ✓ 今後、SEZのインフラ等も順次整備される予定（イスラマバード、シンド州（カラチ）パンジャブ州（ファイサラバード）、ハイバル・パクトウンワ州等 1 3箇所） *8

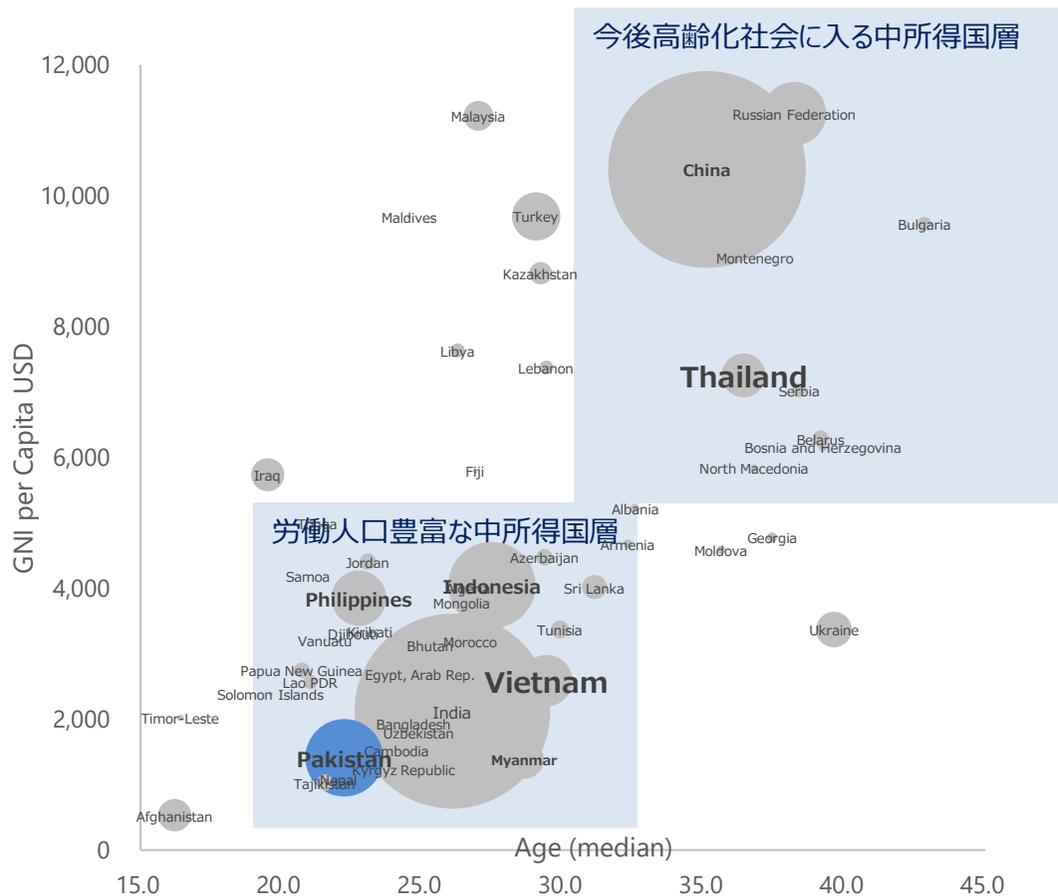
*1 世界銀行(2020)
*2 UNDP(2017)
*3 JETRO(2018)
*4 PT Profit (2020)
*5 JICA (2020)
*6 JETRO (2020)
*7 世界銀行(2020)
*8 BOI (2021)

パキスタンの魅力

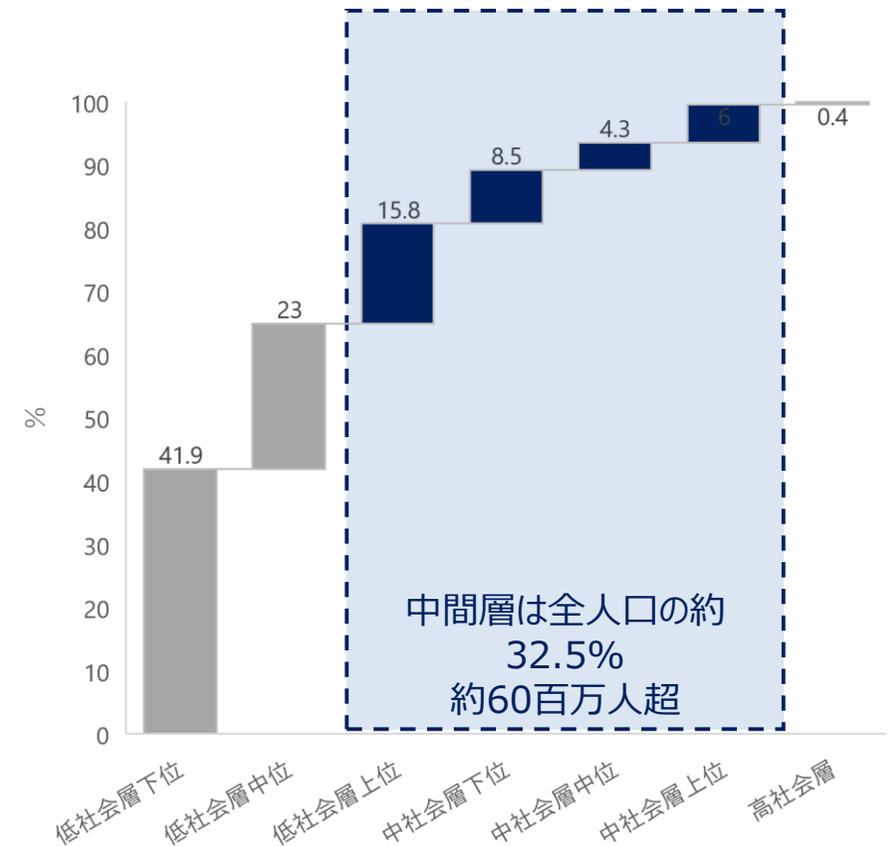
若く、多い人口を擁する国①

- ✓ パキスタンは約2.1億人の人口を擁しながらも30歳以下の国民が人口の約6割強を占めている国である。一人当たりの所得（GNI per capita）も2014-2019の5年CAGRで約3%成長しており、今後ベトナム・フィリピン・インドネシア等の人気東南アジア諸国等に追いつく可能性を秘めている。
- ✓ また、個人消費の大部分を占める中所得層は全人口の32.5%を占めている。

一人当たりGNI/年齢/人口による分布図（中所得国のみ）



パキスタンの社会階層分布(2015)*1



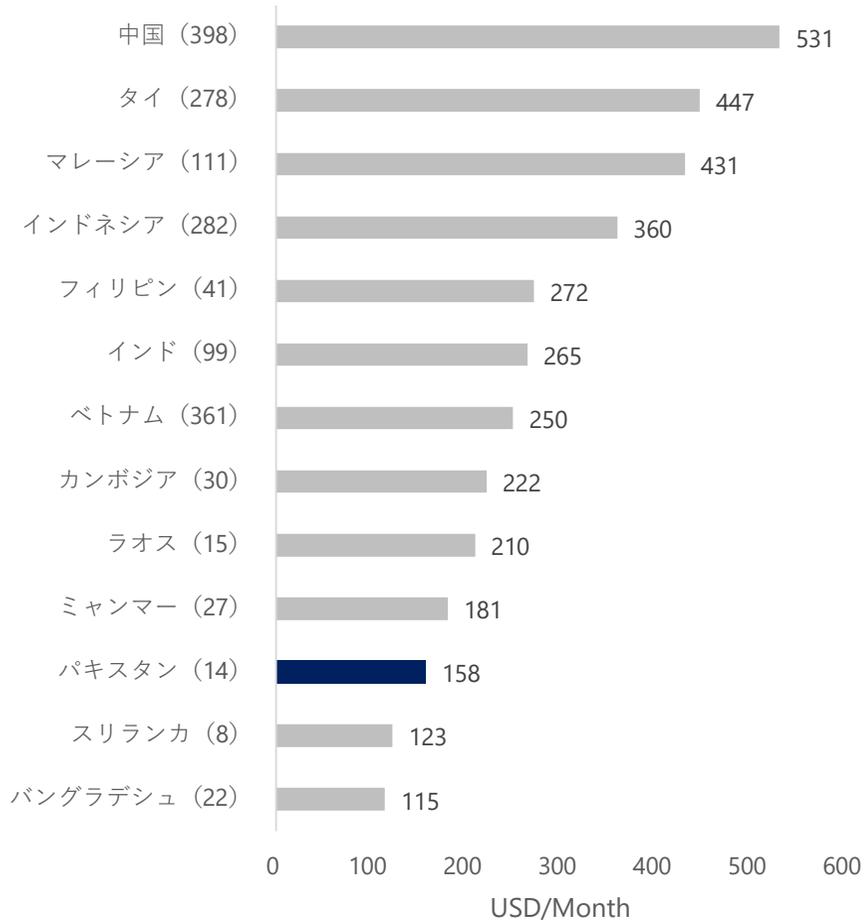
*1階層の定義は主に所得・教育・住まい・職業・ライフスタイルを各指標化したもの。例えば所得による中間層はパキスタンの絶対貧困ラインである1084.2ルピーの2倍(2168.4ルピー)以上としている。

パキスタンの魅力

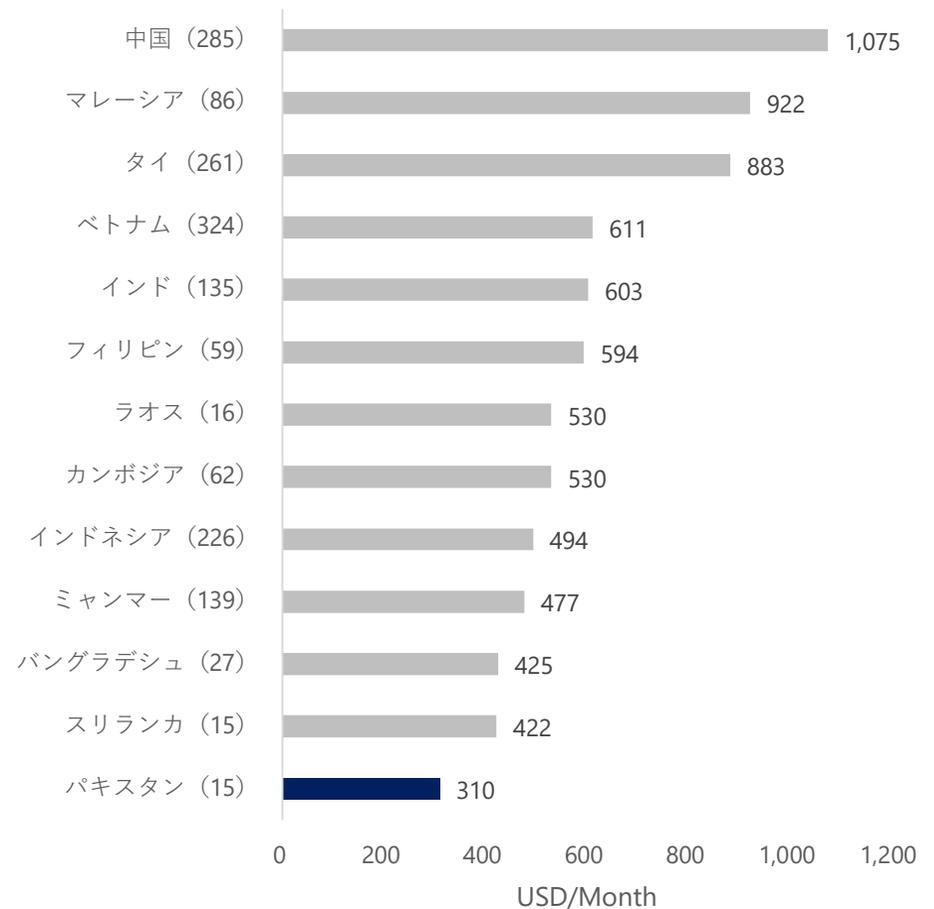
若く、多い人口を擁する国②

- ✓ 2020年12月現在の調査では製造業の作業員レベル、非製造業のスタッフレベルの月額基本給平均はそれぞれ158米ドル、310米ドルとなっており、主要な東南・南アジア諸国と比較しても低い水準である。*1

製造業・作業員の平均月額基本給（企業数）



非製造業・スタッフの平均月額基本給（企業数）



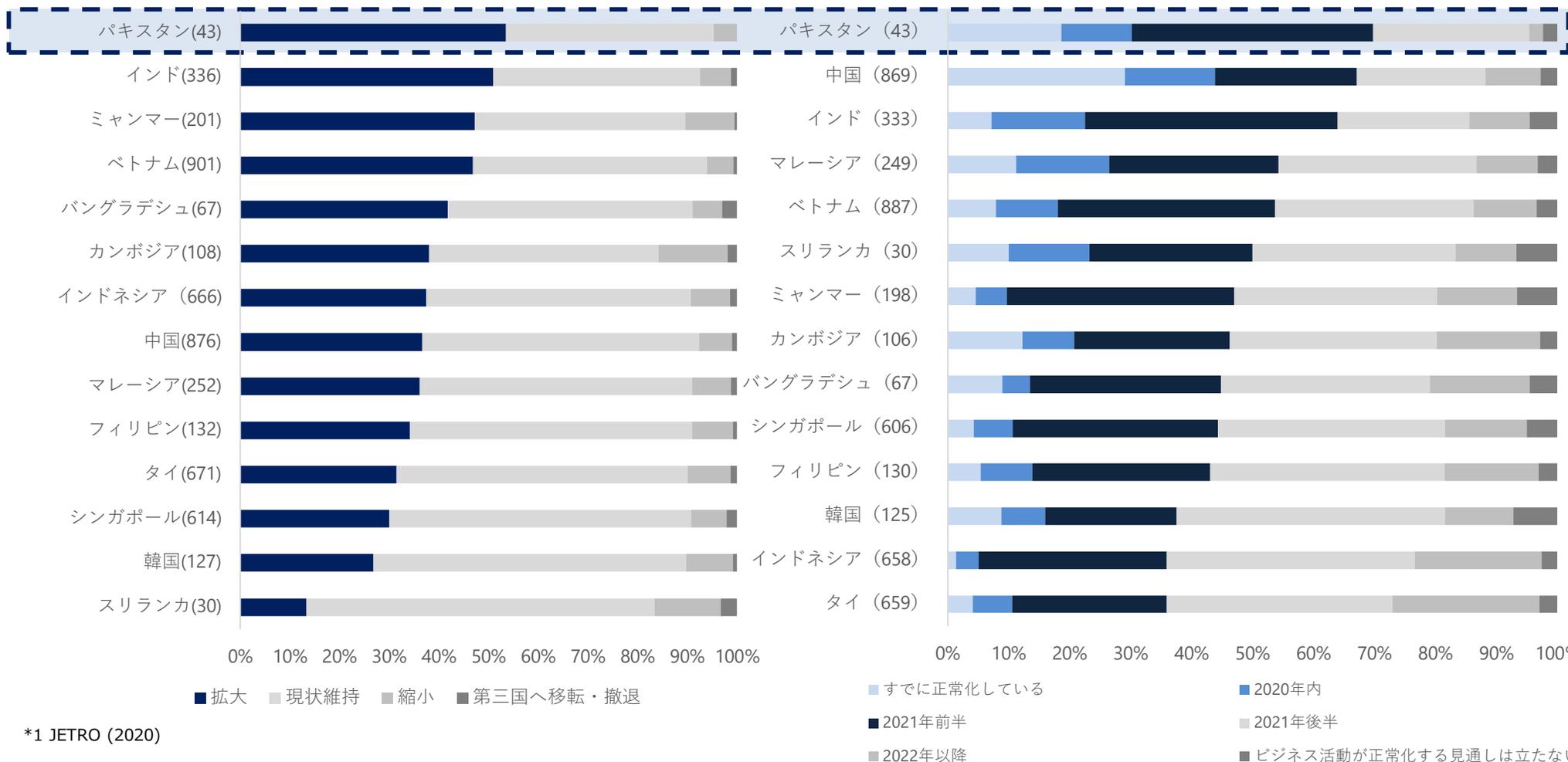
パキスタンの魅力 コロナ禍でも堅調に伸びる市場



- ✓ 2020年こそ営業利益は減少したものの、多くの進出済み企業が2021年前半までにビジネス環境は正常に戻ると見ており、多くの企業が事業が拡大できることを予想している。

今後1-2年の事業展開の方向性（企業数）*1

ビジネス環境が正常に戻る見通し（企業数）*1

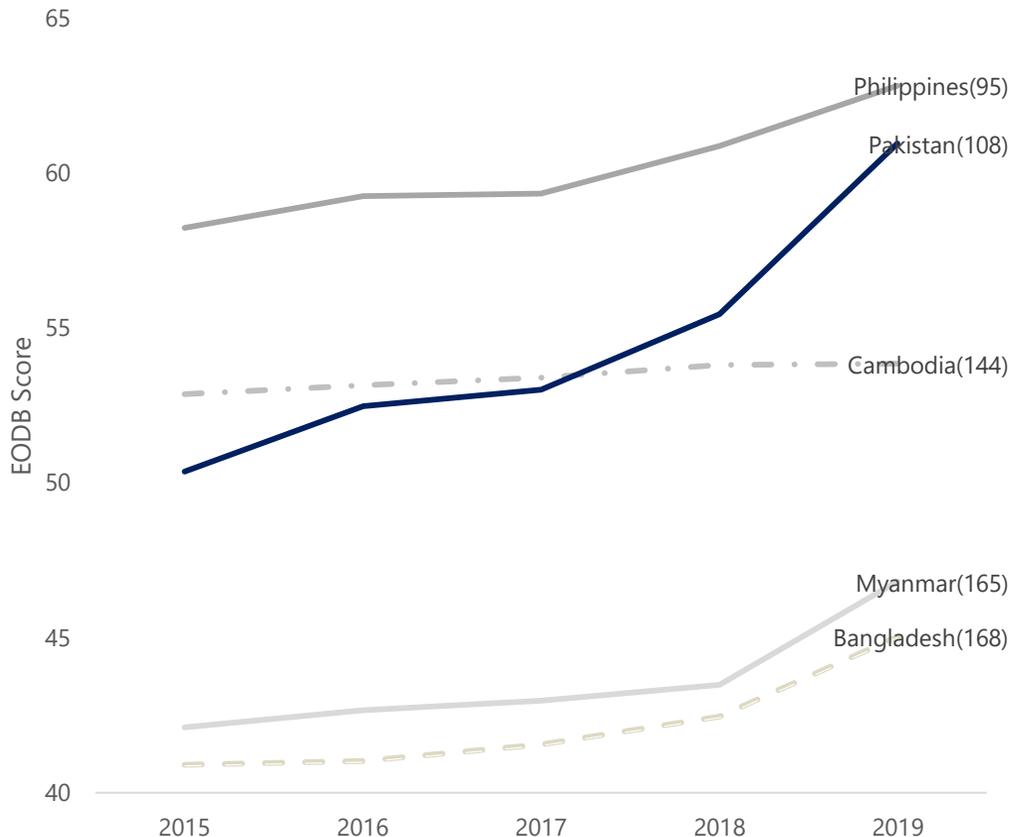


*1 JETRO (2020)

パキスタンの魅力 整備されつつあるビジネス環境

- ✓ 世界銀行がビジネス環境の整備状況指数化したEase of Doing Business (EODB)のスコアはここ5年で急激に上昇しており、昨今日系企業の投資が集まる、フィリピンに迫る程度まで改善している。
- ✓ 特にビジネスの開始、破産に関する手続き及び小規模投資家保護に関する制度が他国と比較しても整っている。

EODB総合スコア (2019年順位/190ヶ国中)*1



EODB各スコアの順位 (190ヶ国中)*1



*1 世界銀行 (2020)

パキスタンの魅力とJICAの活用方法

1. パキスタンの魅力
- 2. JICAの活用方法**

- ✓ JICAは日頃民間企業の相談を受けており、情報提供から事業の相談まで幅広く可能な範囲で対応している。
- ✓ JICAの活用の際には民間連携事業部・パキスタン事務所・南アジア部南アジア第二課（パキスタン担当課）などにご相談いただきたい。

課題例

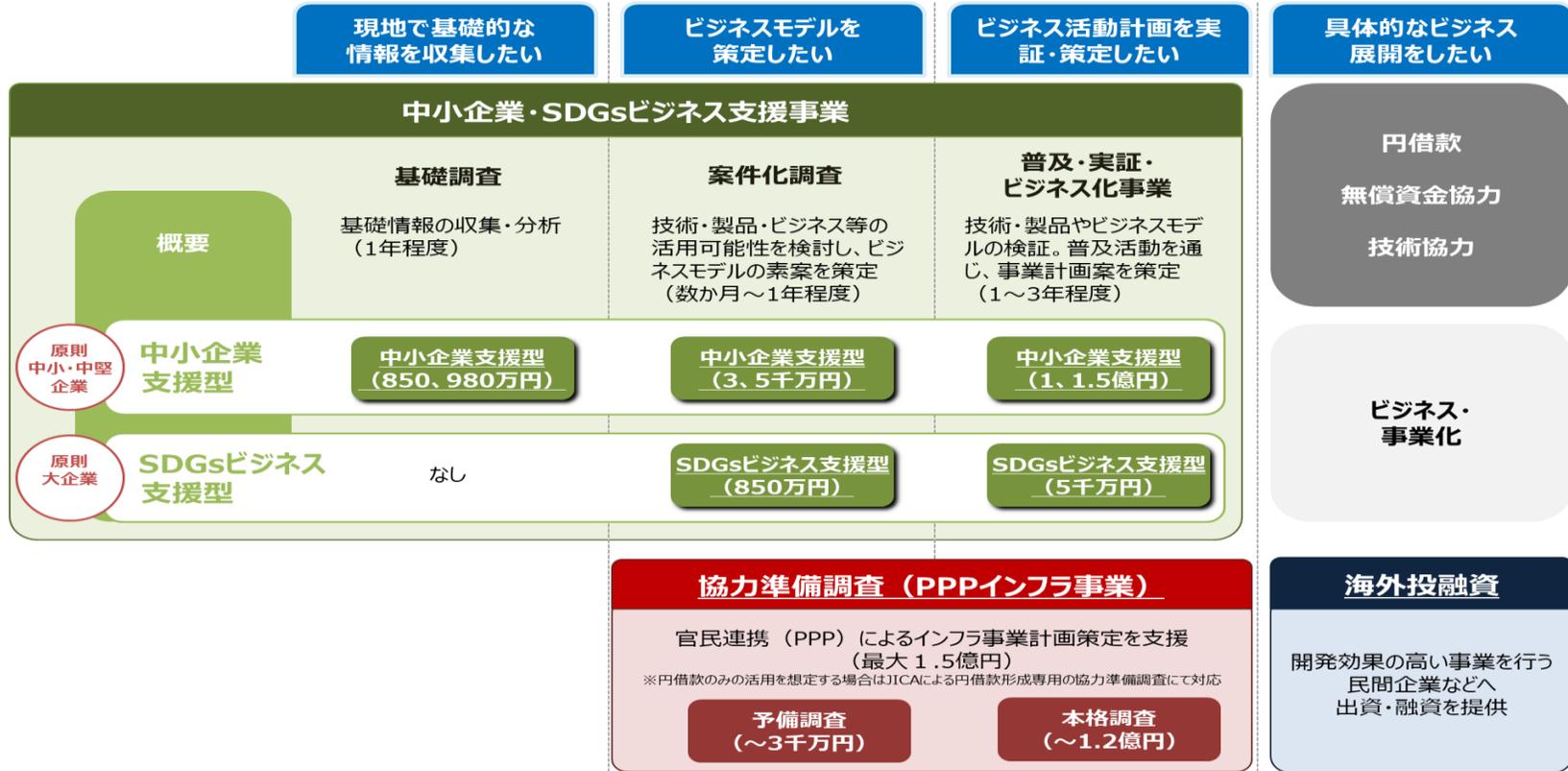
活用例

1	<p><u>市場の情報不足している。</u> 例：市場規模・競合・投資環境等の情報が英語・日本語で入手できない。</p>
2	<p><u>現地とのネットワークが不足している。</u> 例：パキスタンの監督官庁に対してヒアリング等を実施したいが、ネットワークがない。</p>
3	<p><u>政府による政策の改悪リスクがある。</u> 例：進出先の政府による規制強化によって事業上の負担が増える可能性がある。</p>
4	<p><u>リスクが高い投資事業の挑戦したい。</u> いままで事業したことがない国での政府とのPPPを実施したいが、リスク把握が困難。</p>



<ul style="list-style-type: none"> ✓ JICAのレポート等の確認及びJICA担当者へのヒアリングの実施 ✓ JICAの民間連携事業（次ページ参照）を活用した市場調査やパイロット事業の実施
<ul style="list-style-type: none"> ✓ JICAを通じた相手国政府関係者とのアポイント設定 ✓ JICAを通じた現地日系商工会や大使館とのアポイントメントの設定
<ul style="list-style-type: none"> ✓ JICAの人材（例：政策アドバイザー）を通じた政策提言や対話の促進 ✓ JICAの事業（例：政策開発型借款）を通じた政策やビジネス環境の改善
<ul style="list-style-type: none"> ✓ JICAの海外投融資事業を活用したバックファイナンスの確保

- ✓ JICAでは途上国が抱える課題解決に資する民間企業の技術・ビジネスの途上国進出を支援している。各事業のフェーズに応じて、市場調査からパイロット事業まで支援可能（公募選定プロセスあり）
- ✓ 参考URL：[支援メニュー一覧 - 民間連携事業 \(jica.go.jp\)](https://www.jica.go.jp/activities/01/01_01_01.html)



途上国の情報収集や相談をしたい

PARTNER

国際キャリアの総合情報サイト

**貿易投資促進
アドバイザー**

現地のビジネス環境等についての情報を提供

自社の将来を担う人材を育成したい

**民間連携
ボランティア**

自社の社員を育成のために途上国へボランティアとして派遣

ABEイニシアティブ

現地人材へ日本の修士課程教育とインターンシップを提供

- ✓ 日本で民間総合病院を運営やコンサルティングサービスを行っていたグリーンホスピタルサプライはバングラデシュ地場企業であるイーストウェスト医科大学病院と共同で病院事業に出資、JICAは左記共同出資先であるShip Aichi Medical Service Limited (SAMSL)に借款を実施、日系企業のバングラデシュへの進出を支援しながら同国の医療サービス向上に貢献している。

日本の病院経営ノウハウを活かして医療水準向上に貢献

事業概要

バングラデシュ人民共和国の首都ダッカにおいて、民間総合病院を設立・運営することにより、日本の病院経営ノウハウを活用した医療サービスの提供を図り、もって同国の医療水準の向上に寄与するもの。

事業スキーム



(注1) シップヘルスケアホールディングス株式会社の中核企業であるグリーンホスピタルサプライ株式会社 (GHS) が出資者となる。
(注2) イーストウェスト医科大学病院 (EWMCH) の経営者3名が出資者となる

事業意識

1. バングラデシュの医療水準向上

主に中間層以上を対象に専門的な医療サービスを適切な価格で提供することで、バングラデシュの医療水準の向上及び医療技術の発展に寄与。無償のボランティア病床の設置による低所得者層への医療サービスの提供。

2. 医療人材の育成

現地及び本邦病院の支援のもと、専門的な医療人材の育成を図り、バングラデシュの医療人材の質向上に貢献。

3. 我が国医療の国際展開

バングラデシュに大きな経験のあるJICAが本邦企業の海外展開を支援することで、日本政府の未来投資戦略、健康・医療戦略を推進。

✓ 現在の日本人及び日系企業のパキスタンへの進出状況は下記の通り。

【在留邦人】*1
1,016人（2020年10月時点）

【日系企業進出数】*2
79社

【進出済み日系企業例】*2

-製造業-

スズキ、トヨタ自動車、本田技研工業、日野自動車、ヤマハ発動機、デンソー、トヨタ紡織、GSユアサ、サンデン、伊藤忠丸紅鉄鋼、メタルワン、DIC、関西ペイント、日本ペイント、大塚製薬、味の素、ニプロ、YKK等

-非製造業-

三菱商事、三井物産、住友商事、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、双日、ホンダトレーディング、三菱UFJ銀行、オリックス、日本郵船、商船三井、飛島建設等

*1 経済産業省 (2018)

*2 JETRO (2020)

- ✓ パキスタン人の日本に対する感情は概ね好意的であり、日本ブランドへの信頼も厚い。
- ✓ また、日本の商慣習に一定程度の理解を示しビジネスを行うことができる環境である。

日系企業が考えるパキスタンの魅力*1

項目	評価ポイント
経済成長性	3.62
親日的な国民感情	3.50
市場規模	3.42
人件費の安さ	3.40
従業員の定着率	3.05

対日感情に対する日系企業のコメント*2 *3



日系商社

古くからの日パ関係があり、日本最員のオーナーが多い



日系商社

日本の製品、技術、商慣習への敬意と理解がある



JETRO

日本製の家電製品や自動車等に対する信頼が厚い、総じて日本ブランドへの信頼が厚い

*1 経済産業省 (2018)

*2 JICA(2020)

*3 JETRO (2012)

ご清聴ありがとうございました

連絡先 JICA南アジア部南アジア第二課 担当:川谷、中村、吉岡
Eメールアドレス 4rtd2@jica.go.jp

